

## 「ことばの世界をひろげよう」

実施 平成24年1月～2月  
対象 第3学年きく組(31名)  
授業者 岩浅 健介

### 1. 単元の目標

- 日本にも、世界にもたくさんのことわざや慣用句・故事成語があることを知る。同じ意味や同じ場面の表現が複数あることに気づく。
- 興味をもったことばを調べるために、辞書を使ったり、資料をあたったりして調べることができる。また、分かりやすく伝えるために、表現を工夫できる。
- 日常会話の中や、テレビや本などのことわざや慣用句・故事成語に興味をもち、進んで調べたり集めたりするなかで、ことばの表現を広げようとする。

### 2. 単元について

#### (1) 教科の視点から

本単元では、伝統的な言語文化であることわざや慣用句・故事成語について扱った。これらの言葉には、『聖書』に起源をもつ「豚に真珠」や、『孟子』に由来をもつ「五十歩百歩」など、もともと世界中に原典をもつ翻訳された、外来語としてのことわざもある。つまり、学習内容としてことわざや慣用句・故事成語を扱うことは、日本の歴史的な背景や文化や、日本と同じように古くからある世界中の表現に触れることでもあると考えた。そこで、長い間使われてきた言葉の意味を調べ、場面の様子を考え、実際に使うことをねらって、本単元を構成していった。


#### (2) 研究との関連から

前述のことからもわかるように、ことわざや慣用句・故事成語には、その言葉の成立した背景に、既に異文化間に立った視点や考え方を内包している。物の見方・考え方の違いがより分かりやすく伝わるように、同じ場面を違う言葉で言い換えたり、違う言語で言い換えたりするように、表現の違いを比べるように、単元の中で扱った。日本のことわざだけでなく、世界のことわざにも触れることで、言葉への関心をさらに高めることをねらった。

### 3. 児童の実態

本学級の児童は、日頃から、分からない事柄や言葉を見つけると、国語辞典や百科事典などを使って、進んで調べるように、追究活動へ取り組んできた。また、家庭学習での調べ学習や意味調べの学習にも、意欲的に取り組み、ことばの世界(語彙)を広げている児童も多くあった。ことわざや慣用句・故事成語については、辞書的な意味は分からないけれど、「いろはがるた」で聞いたことがあったり、普段はあまり使う機会に恵まれないけれど、何となく意味が分かったりする程度の語彙知識はもっていることが分かった。この学習を行うことで、日本の昔から使われている言葉と意味をより知って、かつ、実際に使っていく中で、日本の文化に親しんで行くことができることと、古くからあるように見えて、実は外国から入ってきたことわざや、外国で実際に使われているようなことわざの意味を考えながら、親しみが持てればよいと考えた。

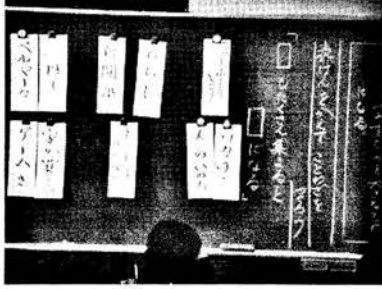
4. 学習の実際 (全8時間)

学習の流れと児童の主な活動	◇手だて ◆見取り
<p>第1次「ことわざをたくさんあつめよう」(5時間)</p> <p>0時間目</p> <p>○かるた遊びをした。 →「ことわざ」がそのままの意味ではない、面白い言葉であることに気づいた児童が多かった。</p> <p>○自分が取った取り札の、言葉の意味をことわざ辞典・国語辞典で調べた。 →「犬も歩けば棒に当たる」に、いい意味と悪い意味と、2通りの意味があるなど、言葉の面白さを感じていた。</p> <p>【1時間目～4時間目】</p> <p>○犬棒かるたに収録されていることわざについて調べた。 →グループで手分けして、どのようなことわざがあるか、一覧を作成しながら進めた。</p> <p>○「面白いな」と思ったことわざとその言葉の意味を紹介した。</p> <p>【5時間目】</p> <p>○児童各々が「面白いな」と思ったことわざを、カードにして紹介した。 →グループの中で互いに紹介し合って、意味を共有していった。</p>	 <p>◇子どもたちにとってなじみのな言葉が多いため、誰でも遊んだことのある「犬棒かるた」を使った。</p> <p>◆ことわざを調べたいと思った児童が、予想よりも多く、自主的にことわざ辞典で調べ学習を進めていた。</p>
<p>第2次「世界のことわざへ目を向けよう」(3時間)</p> <p>【1時間目(本時)】</p> <p>○英語のことわざ「Drop by drop the tub is filled. (水滴も集まれば桶があふれる)」が、どのような意味の言葉か、想像した。 ※類語である「Many drops makes shower. (たくさんの水滴が集まると、雨になる)」も用意しておいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語にもことわざってあるんだ。</li> <li>・どんな意味なんだろう。</li> <li>・それとも落ちるってことかな?</li> <li>・「tubってバスタブのことかな?」</li> <li>・「filled」は分からないけれど、溜まるってことかな?</li> <li>・日本語のことわざになってそう。</li> </ul> <p>○同じ意味の日本のことわざでは何か考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで調べた中であつたかな?</li> <li>・風が吹けば桶屋が儲かる?</li> <li>・ちりも積もれば山となる!</li> </ul>	<p>◇「ことわざ」であることを伝え、昔から言われていることであることもあわせて、ふり返った。</p> <p>◇絵や図を用意しておき、キーとなる単語ごとに写真を見せた。</p> <p>◇想像した場面を話させた。</p> <p>◇隣や周りの児童同士、あるいはクラスの仲間の考えを聞きながら考える雰囲気を作った。</p> <p>◇「何か」がたくさん集まると「別の何かになる」ことへ、目を向け、表現の豊かさに気づかせるようにした。</p> <p>◆自分(たち)なりの考えをもち、進んで考えようとしていた。</p> <p>◇「ちりも積もれば山となる」が、児童の間から出てきた段階で、「本当にそうなのかな?」と追発問して、学級全体へ考えを広げるようにした。</p> <p>◇日本語でも英語でもことわざがあり、言い伝えられてきた言葉であることに気づくようにした。</p> <p>◇「ちりも積もれば山となる」を板書し、全体で共有した。</p>

教科部会

○『「ちり」が集まって「山」になる』の、「ちり」と「山」の表現を言い換えて、新しいことわざをグループで考えた。そして、自分たちの考えたことわざをみんなに紹介した。

- ・「ペットボトルキャップ」もたくさん集まると「ワクチン」になる
- ・「ペットボトルキャップ」もたくさん集まると「人の命」になる
- ・「ちらし」もたくさん集まると「トレットペーパー」になる
- ・「新聞紙」もたくさん集まると「トレットペーパー」になる
- ・「1円玉」もたくさん集まると「家」が買える
- ・「ベルマーク」もたくさん集まると「ゲーム機」になる



○学習感想を書いた。

- ①友達のことわざを見て思ったこと
- ②英語のことわざと日本のことわざを比べて思ったこと
- ③これから、どのような学習をしていきたいか、ことわざと向き合っていきたいか

の、三つの視点を大切にした。

- ・外国にも日本と同じように、ことわざがあって、面白いなと思った。
- ・他にもどんなことわざがあるのか、調べてみたいと思いました。
- ・別の国でも、同じ意味のことわざがあるのか知りたくなりました。

○書いた学習感想をクラスへ紹介した。

### 【2～3時間目】

○アルゼンチンのことわざ「突然アルマジロを贈られる」が、どのような意味の言葉か考えた。

①それぞれの言葉について調べた。

→「アルゼンチン」「アルマジロ」

- ・アルゼンチンは、南アメリカの国。
- ・サッカーが強い。
- ・メッシ!
- ・アルマジロは、甲羅が堅い。
- ・かわいい生き物だと思う。

②どんな状況なのか、登場人物や文化背景を想像した。

→「自分」と「(アルマジロを)贈ろうとしている人」の関係は?

- ・多分互いに知っている人
- ・きっとペットにどうぞっておくったのだと思う。

◇ことわざは、言い伝えられていくもので、これから作る言葉も、「言い伝えられていく中で、ことわざとして認められるかもしれない」点に触れるようにした。

◇「小さいものがたくさん集まると大きな別のものになる」という意味を外れないような想像や言い換えにとどめるようにするようにつけた。

◇「ゴミが集まるとゴミの山になる」のように、「集まると別の何かになる」ことから外れないようにして、本来の意味ではない、「努力が大切である」という意味も許容するようにした。

◇「○○(ちり)」「××(山)」に分けて、黒板へ短冊を使ってまとめた。

◇友達の見えも聞きながら、ノートへ書き進めるように話した。

◇「これから先、言い伝えられていって、新しいことわざになるといいね。」と、肯定的に受け止める中で、学習感想を書かせるように気をつけた。

◇②の視点について書いた児童を取り上げられるように、机間をまわった。

◆これから先どうしていきたいかについて、自分の考えを書くことができていた。

◇別の意味のことわざとして、どんな意味になるのか考えさせるために、板書から始めた。

◇意味を考えるために、どのような場面であるか想像させるようにした。

◇一つ一つの言葉を丁寧に考え、組み合わせさせた時の状況・場面について、学級全体で共有しながら進めるように気をつけた。

◇どうしてもこれだけでは分からない。もっとアルゼンチンについて知りたい!と思わせるように促した。

◆一つ一つの言葉について、自分の知っていることから、状況を想像していた。

◇今までに分かったことから考

<p>○今まで聞いたことのあることわざや慣用句と比べて、似たような意味のことわざがあるのか、考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「棚からぼた餅」かな？</li> <li>・「ただより高いものはない」とか？</li> <li>・これだけじゃ分からない。</li> <li>・アルマジロをこの後どうするのが分からない。</li> </ul> <p>○資料を使って、アルゼンチンとアルマジロについて、みんなでくわしく調べた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルゼンチンは、牛の丸焼きとか、豪快な料理が多い。</li> <li>・アルマジロは、虫とかを食べて、大きくなると20キログラムを超える大きさになるらしい。</li> <li>・もしかして、食べたりする？</li> <li>・「鍋でアルマジロがぐつぐつ煮られています！」</li> </ul> <p>○アルゼンチンのことわざ「突然アルマジロを贈られる」が、どのような意味の言葉か考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アルマジロがごちそうだから、プレゼントされると、うれしい。</li> <li>・友達が突然ごちそうを持ってやってきたら、感激する。</li> <li>・いっしょに食べようっていうお誘いなのかな？</li> <li>・お父さんが急にケーキとか買ってきてくれると、うれしいもんね。</li> </ul> <p>○学習感想を書いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本にはないことわざだったけど、面白い。</li> <li>・もっと他の国のことわざを調べたい。</li> <li>・こういう国語の授業をたくさんやりたい。</li> </ul>	<p>えて、どんな意味になりそうか、予想させた。</p> <p>◇もっとアルゼンチンやアルマジロについて調べたい欲求が高まるように、言葉掛けをした。</p> <p>◇食文化・気候や人々のくらしを調べる中で、より想像を膨らませることを大切にした。</p> <p>◇アルマジロ=ごちそうという文化に繋がる意見をクラスで共有するようにした。</p> <p>◇今までの学習を踏まえて、改めて、このことわざの意味を考えるように促した。</p> <p>◇教師から多くを投げかけるのではなく、子ども同士の会話の中で、考えが深まっていくようにした。</p> <p>◇最終的に、本当の意味「友達が突然尋ねてきてくれて、楽しくパーティーをする」というニュアンスに近づいたところで、話し合いが終わるようにした。</p> <p>◆外国の文化に目を向けて、進んでかかわっていききたい気持ちを書いていた。</p>
--	--

## 5. 考察

### 【成果】

ことわざや慣用句・故事成語の学習は、ことばあつめの活動で終わることが多いように思う。この学習活動を、いかにグローバルな視点と繋げていけるかが、本実践に課せられた課題である。言語活動の充実が、グローバル人材の育成という観点から、自分の思いを分かりやすく相手へと伝え、友達の考えをよく聞き、思いを共感していく子どもたちの態度を育てていくことも考えられた。しかし、言語活動の充実や、我が国の伝統的な言語文化に触れるだけでは、世界へ目を向けることに繋がらないこともまた、一理あるように思った。そこで、我が国の伝統的な言語文化としての「ことわざ」「慣用句」「故事成語」を教材研究だけでなく、世界でも、同じような言い回しや言い伝えが、残されているかどうかという、教材研究を行った。この教材研究の中で、世界には一目で意味がつかめない「ことわざ」「慣用句」「故事成語」が多く残されていることを知ることになった。教師としての視点ではなく、1人の人間として、「とても面白いな」と感じた。奇しくも、授業実践を行った児童の感想としても、同じように、「世界のことわざについて調べてみたい」「ことわざって面白い」と、世界と日本とをくらべ、これから調べていこうとする意欲や関心が、児童の中に感じられた。日本語ではあるけれど、語源や世界の言葉と比較する中で、活動にかかわった人々のことばの世界は広がっていくと確信できた。また、実際に自身が教材研究で扱った資料を貸し出してほしいという児童からの要望が増え、自主的にノートにまとめるなど、意欲的に調べ学習を進める姿も見られるようになったことが、何よりの成果だと考える。

### 【課題】

「ことばの世界を広げよう」という単元でありながら、発表会における本時では、即物的なことばに関心が偏ってしまったことが、今後の課題だと考える。ことばの響きの美しさや、想像を広げていく楽しさを、もっと一つ一つの



授業へ取り入れていく必要があったように思う。また、国際・異文化間理解という視点に立ったときに、日本と世界という視点について、国際資格児童や、友達同士の意見の相違などにも注目させておく必要があったように思う。また、ことわざ調べ、慣用句調べなどの活動には、多くの時間を割かなければならず、スムーズに学習を進めていくための、単元全体の見通しや、準備すべき辞典・事典などの配慮に欠けていたように思う。

協議会での指摘があったように、研究会本時のめあての持たせ方や、ポイントとした手立てについても、児童の実態と学習活動の進度とにそぐうものであったか、あるいは、十分吟味したものであったか、また、自身の教師としての授業力についても、「？」をあて、さらに向上できるよう努力していかなければならないと思った。

#### <資料>

- 『世界たべものことわざ辞典』西谷裕子・編 東京堂出版 2007
- 『ことわざ検定 公式ガイドブック 上巻(4～6級)』時田昌瑞・監修/著 シンコーミュージックエンタテイメント 2011
- 『新版 日英比較 ことわざ事典』山本忠尚監修 創元社編集部・編 創元社 2008
- 『世界の常識VS日本のことわざ』布施克彦 PHP研究所 2011
- 『教育とことわざ』日本ことわざ文化学会・編 人間の科学社 2011
- 『故事ことわざ慣用句辞典 第2版』三省堂編集所・編 三省堂 2010
- 『外国のことわざ』北村孝一・著 アリス館 2006
- 『和英ことわざカルタ丸 第1集・第2集』奥野カルタ店
- 『犬棒かるた』奥野カルタ店

### 3 協議会

#### 【国語部会・協議会より】

○『国語部としての「異文化間理解」とは、どのようなことか。』

今年度の研究ベースでは、「日本国と諸外国として、国や地域の異なる人々と、どのようにかかわっていくか」というマクロな内容・領域を扱うが、将来的には、自己と他者、自分と友達の考えの違い、というミクロな内容や領域を考えていく必要があると考える。

○『国語と世界をかかわらせる単元は、年間指導計画の中にどのように位置付けられているのか。また、グローバルな視野を持たせる学習内容は、どの程度行っているのか。そして、気をつけているポイントや導入するための手だては、どのようにになっているのか。』

国語の年間指導計画上では、世界とかかわる単元・学習内容は、教科書に準じている。それぞれの学年の発達段階も考慮するが、多くて、学期に1つ程度の活動を考えている。しかし、学習活動の中で、話し合い活動(言語活動)を充実させることで、自分と友達の考えの違いを意識する学習活動が行えることは、低学年・中学年段階では、今回の授業を見ていただいた通りである。また、高学年では、自分の考えや思いをぶつけ合い、互いの考えを理解する話し合い活動を行う。子どもたちは、自分の考えや思いを、どのように相手へ伝えていくか、友達の考えと違うところで、どのように折り合いをつけていくのかを考える。よって、異文化間理解の素地となる部分の内容を扱うことは、いつもの授業の中の工夫でできると考える。教材研究や授業の展開を考えるときに、身につけた力を発揮させる場面を、グローバルな社会の中に位置づけていくことで、子どもの中にも意識づけられる。今回の世界のことわざのような、学習の発展的内容として扱うこともあり得るのではないか。

○『ことわざや慣用句・故事成語という学習内容は、外国の文化と比較的繋げやすい単元であると思った。ただ、内容として、中学年段階として、相応しい内容であったかどうかの疑問が残るが、面白い試みであったと思う。』